

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は様々な人々が学びを求めて、一同に集う学校である。このような生徒に寄り添い、個々に応じた教育活動を実践し「入学してよかった」と言われる学校をめざす。

①生徒が自分の未来を創造できる学校：基礎学力を身につけ、社会の一員として活躍できる人材を育成する。

②生徒一人ひとりが大切にされる安全で安心な学校：規範意識を育て、互いの違いを認め、周囲への気配りのできる人材を育てる。

③地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校：連携を通じて愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1. 基礎学力の定着
- （1）「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり
- ア. ICTや1人1台端末、視聴覚教材を取り入れた興味・関心を高める授業を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒に学ぶ喜びを感じさせる。
- イ. 規則正しい学校生活を通して授業規律を確立し、学習環境を整え、安心して学習できるようにする。
- ウ. 生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫をおこない、基礎学力の定着に向け、意欲的に学習活動に取り組む力を育む。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業はプリント、ICT、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率(R3 89%, R4 90%, R5 91%)をR8年度まで89%以上を維持する。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率(R3 75%, R4 77%, R5 85%)をR8年度まで80%以上を維持する。
- ※新入生の2年生への進級率（R3 81%, R4 75%, R5 88%）をR8年度まで85%以上を維持する。
- （2）図書館の利用を促進し、漢字をはじめとする言語力や読解力などの確かな学力を育成する。
- ※生徒一人当たり年間平均来館回数（R3 7.9回, R4 8.0回, R5 4.9回）をR8年度まで7.5回以上を維持する。
2. 自尊感情の育成
- （1）人としての倫理観や規範意識を確立する
- ア. 自己肯定感を高め、他者を理解し、互いを認めることで人間性をともに高めあうように指導する。
- イ. 命の大切さ、善悪の判断等につながる人権教育を推進し、多様性を認め、いじめは重大な人権侵害であることを認識させる。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率(R3 87%, R4 86%, R5 93%)をR8年度まで87%以上を維持する。
- （2）コミュニケーション能力の向上
- ア. 社会を構成する一員として挨拶のできる生徒を育て、積極的な社会参加をはかる。
- イ. 学校行事に自主的、積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。
- ウ. 体育祭、文化祭等の行事において保護者、地域、中学校教員と連携、交流することでいろいろな人とコミュニケーションを取ることができる力を育む。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「自分はいいさつをしている。」の肯定率(R3 72%, R4 75%, R5 87%)をR8年度まで77%以上を維持する。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。」の肯定率(R3 74%, R4 81%, R5 88%)をR8年度まで80%以上を維持する。
- （3）家庭、中学校、地域との連携強化
- ア. 必要な情報を速やかに発信し情報共有を密にして学校、家庭、中学校、地域が一体となり教育活動を進めることで、さまざまな視点を持って生徒を成長させる。
- イ. ボランティア活動に参加させることで地域との結びつきを考えさせ、社会貢献活動の意義を理解させる。
- ※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率(R3 83%, R4 78%, R5 84%)をR8年度までに85%にする。
- （4）課題を抱える生徒への支援体制の充実
- ア. フォローアップコーディネーター、生徒支援委員会を中心として個々のニーズを把握することで効果的な指導、支援をし、安全、安心に学校生活を送ることができるようにする。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率(R3 81%, R4 79%, R5 81%)をR8年度までに83%にする。
- ※中退率（R3 5.3%, R4 9.0%, R5 3.7%）をR8年度まで7%以下を維持する。
3. キャリア教育の充実
- （1）生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。
- ア. 進路に関する十分な情報を生徒へ提供するとともに、保護者との連絡を密にし、学校・家庭が協調して指導にあたる。
- イ. ガイダンス機能の充実をはかり、1年次より継続的に個々のニーズに応じた進路指導を行う。
- ウ. 就職希望者には就労体験・応募前職場見学を勧め、進学希望者には志望校への進学実現に向けた準備、プランニング等の情報を提供し、目標に向けて粘り強く挑戦・努力する力を育成し、希望進路実現率を向上させる。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率(R3 82%, R4 83%, R5 89%)をR8年度まで85%以上を維持する。
- ※学校教育自己診断（生徒）で「進路指導に関する問No.15・16」の肯定率(R3 82%, R4 83%, R5 85%)をR8年度まで85%以上を維持する。
- 問No.15 ホームルームなどで自分の将来について考える機会がある。
- 問No.16 学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。
- ※卒業生の希望進路実現率(R3 64%, R4 80.8%, R5 61.1%)をR8年度まで75%以上を維持する。
4. 学校力の向上
- （1）教員力の向上
- ア. 授業見学、研究授業等により、授業力向上に取り組む。
- イ. 首席を中心に、経験年数の少ない教員やミドルリーダーの育成に取り組む。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率(R3 84%, R4 86%, R5 92%)をR8年度まで86%以上を維持する。
(2) 職務の効率化
ア. 全校一斉定時退庁日、学校閉庁日等を有効活用し、教職員一人ひとりが意識して時間外労働の縮減と健康管理に努める。
イ. 校内 LAN（掲示板）を活用して効率よく情報共有する。
※1人あたりの時間外在校等時間を月平均15時間以下とする。(R5 達成)
※年次有給休暇を5日以上取得する職員を100%とする。(R5 達成)
(3) コンプライアンス意識の向上
ア. 不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止等について、未然防止のために職員研修を年1回以上実施し、徹底をはかる。
イ. セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報管理体制を強化する。
(4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底
ア. 避難訓練の予定がある週を「防災防犯週間」とし、授業をはじめ、さまざまな場面で生徒の防災意識を高めさせ、実践的な避難訓練を実施するなど、防災防犯体制の充実をはかることで、生徒・教職員の身の安全を確保する。
イ. 保健・安全・衛生面での情報をタイムリーに生徒に周知し、感染症やアレルギー等への予防安全を徹底し、事故等の発生を抑制する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【基礎学力の定着】 生徒の授業に関する4項目は肯定回答の平均が〔89.8%〕⇒89.5%と安定した高い肯定率を維持している。 ・授業はプリント、ICT、映像等を使い工夫している〔91%〕⇒96% ・授業の内容に、ついていける〔91%〕⇒86% ・授業は、わかりやすい〔92%〕⇒94% ・授業中は、落ち着いていて学習しやすい〔85%〕⇒82% また保護者の授業に関する2項目の肯定回答の平均も〔88.5%〕⇒82.5%とやや減少するも高い肯定率を維持している。 ICT 機器の活用も恒常化しており、調査においても紙ベースのアンケートをほぼWeb化した。 【自尊感情の育成】 生徒の自尊感情の育成としての指標である4項目は肯定回答の平均が〔87.3%〕⇒84.8%と高い肯定率を維持している。 ・命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。〔93%〕⇒91% ・自分はいいさつをしている。〔87%〕⇒83% ・体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。〔88%〕⇒79% ・話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。〔81%〕⇒86% 人権HRをはじめ様々な機会をとらえて生徒に話し、生徒の声を聴き、粘り強く寄り添っていく指導の効果がでてきている。あいさつについては、登校時校門での積極的な声かけに応える形であいさつを返す生徒が増えている。学校行事についても生徒会執行部が自主的活動を支え、多くの生徒が充実感を味わったと思われる。どんなことでも気軽に相談できる体制が、生徒の自尊感情の育成に寄与している。 保護者の同項目（4項目）の肯定回答の平均も〔79.3%〕⇒80.5%と増加した。生徒を通じて学校としての取り組みが伝わり、教職員からのきめ細かな連絡やHP、配布物など丁寧に情報を伝えた成果である。 【キャリア教育の充実】 生徒のキャリア教育に関する5項目は肯定回答の平均が〔83.4%〕⇒86.6%と上昇し、保護者でも同様の3項目の肯定回答の平均が〔80.0%〕⇒84.6%と上昇した。応募前職場見学の生徒への聞き取りをより丁寧に行ったり、入試対策として進学ゼミの回数を増やしたり、個別指導の充実を図ったことで効果が高まり、家庭との連携がうまくできたことも一因である。	【第1回7／12】 <学校経営計画全般についての意見> ・SNSについて、使うことよっての危なさやどのようなリスクがあるのかを、生徒に伝えてもらいたい。 ・生成AIの使用について整備してもらいたい。 ※（意見を参考とした取組）生成AIについて、外部講師を招き教員向け研修を実施。 ・活字離れが進んでいく中で、図書館の利用を増やしてもらいたい。 ・生徒に合わせて本の更新を進めてもらい、道徳を学ぶ面では漫画を導入してもいいのではないかな。 ・定時制のイメージをパンフレットなどで伝え、定時制の良さをアピールしてもらいたい。 ※（意見を参考とした取組）学校パンフレットの刷新。 ・クラブ活動は生徒の主体性や自主性、協調性を学ぶ場として必要。活発になる環境作りをお願いしたい。 ・生徒がいつでも助けを求められるツールを増やしてもらいたい。 【第2回11／21】 <授業改善についての意見・感想> ・授業に対して真面目に取り組んでいて、雰囲気良かった。 ・すべての授業がICTを活用し、視覚的に分かりやすかった。 ・積極的に生徒が発言していて、活気があった。 <授業アンケートについての意見> ・生徒の意識に係る質問の回答で肯定的な回答が増えるようにしてもらえよう頑張ってもらいたい。 【第3回2／14】 <学校教育自己診断についての意見・感想> ・生徒、保護者ともに「先生は話を聞いてくれる」、「困ったことがあれば真剣に対応してくれる」という項目に対し肯定的に捉えており、継続していただきたい。 ・いじめ対応や、命の大切さを考える機会、防災に関することなどの項目で肯定的回答が多く安心している、引き続き安全で安心な学校づくりを継続していただきたい。 <第2回授業アンケート結果についての意見・感想> ・各項目において年々右肩上がりに良くなっており、引き続き授業改善を進めてもらいたい。 ・「生徒の意識」における項目で数値が上がっており、自己肯定感の向上が見られる。 <分掌チャレンジについての意見・感想> ・進路指導において適職診断を実施しているが、非常に大切なことであり続けてもらいたい。 ・進路指導において「卒業生の体験談」など年齢の近い卒業生からの関わりは身近な体験としてためになると思われるので、積極的に行っていただきたい。 <学校経営計画全般についての意見> ・ラーケーションについて学校外での体験を通して成長できる部分もあるので賛成。 ・令和6年度学校評価、令和7年度経営計画の承認をいただいた。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 基礎 学 力 の 定 着	(1)「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業つくりと環境つくり	(1) ア・ICT や1 人1 台端末、視聴覚教材を取り入れ、わかりやすい授業を実施する。 ・1 人1 台端末の有効活用、授業展開の工夫により、生徒が積極的に参加し「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施する。 ・毎時の「授業のめあて」を提示しポイントをよりわかりやすくする。 イ・挨拶運動、巡回指導、携帯指導を継続する。 ・教員が授業中の生徒の現状に満足せず、諦めず、中抜け、無断早退防止の指導を継続し、授業規律を確立する。 ・生徒が授業に集中できる環境づくりを進める	ア・学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業は ICT や映像、プリントを使うなど工夫をしている」の肯定率 89%以上を維持する。 [91%] ・授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」の学校平均 3.30 以上を維持。 [3.43] イ・学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい」の肯定率を 80%以上を維持する。 [85%] ・授業アンケート「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均 3.50 以上を維持する。 [3.65] ・早退者数 300 件以下とする。 [338]	ア・肯定率 96% (◎) 職員会議のペーパーレス化などに伴い教員が会議の場など日常的に ICT 機器を使用している。生徒においてもこれまで行ってきたペーパーベースのアンケートなどを、フォーム作成ツールを利用することにより1 人1 台端末等の活用機会が増え、生徒の実感から肯定的回答が増加したと考えられる。 ・学校平均 3.44 (◎) 学校教育自己診断(生徒)「授業の内容についていける」86%、「授業はわかりやすい」94% と、高い肯定率からこちらからも興味・関心を持つことができたと考える。 イ・肯定率 82% (○) 教職員の指導と協力によって、落ちつた授業雰囲気を作り出せている。 ・学校平均 3.57 (○) 高い数値で達成できているが、注意しなければならない状況でもあるため、生徒指導部を中心に巡回当番等との連携も含め、今後も指導していく。 ●非常勤講師の方への指導の徹底が課題。 ・12 月末 [682] (△) 12 月末の時点で昨年の数値の倍以上となっているが一方で欠席者数(長期欠席者を除く)が昨年と比べ減っている。数値の追跡は必要だが、今後は欠席者との相対関係を検討する必要がある。
	(2) 図書館の利用を促進する	ウ・1 年生に対して入学時、コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、認知能力の把握を行う。 ・毎日1 度は授業の最初に「コグトレ」を実施する。1 年間継続して実施することにより、認知能力の向上をはかる。 ・年度末に、再度コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、1 年間の認知能力の向上を検証する。 ・生徒の特性を理解したうえで、個々の能力に応じて授業内容を工夫し、基礎学力の定着をはかる。 ・日本語指導の必要な生徒に対する支援体制を整える。	ウ・コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストの結果に基づいて、検討会を2 回行い、更なる有効活用をはかる。 ・新入生の2 年生への進級率 80%以上を維持する。 [88%] ・日本語指導アンケートの肯定率 80%以上を維持する。 [95%] ・図書館の生徒一人当たり平均来館回数 7.0 回以上を維持する。 [4.9 回]	ウ ・毎日1 度は授業の最初に「コグトレ」を実施。 ・認知能力測定テストの検討会を年度当初に1 回目、年度末生徒のアンケートを踏まえ2 月に2 回目を実施。 (○) ・新入生の進級率 89% (◎) ・アンケートを刷新し実施 肯定率 93% (◎) ・来館回数 5.4 回 (○) 生徒数が減っているため、相対的に利用者も減ってしまう中、図書担当が工夫を凝らした結果、利用者数は12 月まで延べ887 名で前年比 111%と上昇。 ●在校時間に限りがあるため授業での活用方法を教科にて検討してもらう。
2 自 尊 感 情 の 育 成	(1) 人としての倫理観や規範意識を高める	(1) ア、イ ・全教員が授業、学校行事等において日常的に指導を続ける。また、外部人材を積極的に活用する。 ・新型コロナウイルス感染症、情報モラルなどにおいて差別事象が発生しないよう全教員で生徒を観察し、指導する。 ・SNS の使い方について指導し、事案が起こらないように予防する。	ア、イ ・学校教育自己診断(生徒)で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率 87% 以上を維持する。 [93%] ・差別事象 0 を維持する。 [0 件]	ア、イ ・肯定率 91% (○) 10 月の人権講演会は「落語から学ぶ人を傷つけない話し方」として実施。1 月にも薬物依存からの更生者を招き、「立ち直り」に関する講演を実施。 ・生徒の気になる発言などは問題視し、指導、対応を丁寧に行った。 ・差別事象 0 件 (○)

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

	(2) コミュニケーション力の向上	(2) ア・あいさつ運動を継続して実施する。社会を構成する一員として、あいさつを返すだけでなく、自分から積極的にあいさつすることの意義を HR や集会等においても指導する。 イ・生徒会が中心となって行事の企画運営を行い、自主的、積極的に参加できる環境をつくる。 ・HR などで行事にみんなで参加することの楽しさを伝え、参加したいと思う雰囲気をつくる。	ア・学校教育自己診断(生徒)で「自分はあいさつをしている」の肯定率 75%を維持する [87%] イ・学校教育自己診断(生徒)で「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい」の肯定率 80%以上を維持する。 [88%] ・行事の参加率 62%以上を維持する。 [体育祭、文化祭の平均 70. 0%]	ア・肯定率 83% (○) 生徒の登校時には、多くの教員が門に立ち、あいさつと声かけを行い、生徒が自らあいさつをしやすい環境づくりができた。 イ・肯定率 79% (△) 各生徒会行事においては、担当教員と生徒会役員による入念な準備により本番は円滑に行われている。また、行事そのもののアンケートでは満足度は高かった。 ・行事の参加率：体育祭(65%)、文化祭(63%) 平均 64. 0% (○) 生徒会役員が中心となって運営し生徒たちが主体的に参加、活躍することができた。ただ、全ての項目において数値が下降しており、各行事のアンケート結果などの再調査を検討。
	(3) 家庭、中学校、地域との連携強化	(3) ア・メール、HP を活用し、新型コロナウイルスに関することなど緊急性のある情報に加えて、日々の学校の様子などを積極的に発信し、保護者への情報伝達を迅速かつ丁寧に行う。 ・学校説明会を 2 回実施、また中学校訪問をするなどして保護者、地域、中学校教員へ開かれた学校づくりをめざす。 ・保護者への連絡の徹底と地域、中学校への情報発信(HP や外部での説明会)を活発にする。 イ・ボランティア清掃を実施する。	ア・学校教育自己診断(保護者)で「学校は、家庭への連絡を行っている」の肯定率を 80%以上にする。 [84%] ・本校開催行事(学校説明会、体育祭、文化祭など)への来場者数 150 人以上を維持する。 [207 名] ・近隣の中学校訪問を各校 2 回行い中学校へきめ細かな情報提供を行う。 [新設] ・HP を年 50 回以上更新する。 [68 回] イ・年間 3 回以上実施 [新設] ・1 回当たりの参加者を 30 名以上にする。 [42 名] ウ・年 1 回以上実施する。 [1 回実施]	ア・肯定率 87% (○) 細やかに丁寧にその都度、家庭への連絡を行った。 ・学校説明会 43 名、体育祭 72 名、文化祭 101 名のべ参加人数：216 名 (○) ・寝屋川市内 12 校に関して、1 回目は教員、2 回目は准校長が訪問し情報交換を行った。 (○) ・63 回更新 (○) イ ・ボランティア清掃を 3 回実施(4 回計画、1 回目が雨天中止) 教員からの積極的な声かけもあり、延べ 107 名が参加。(○) ・1 回あたりの参加平均人数も 36 名に上った。(○) ウ 未実施 (△) これまで公開講座として実施してきたものは、中学校への出前授業であり、趣旨と取り組みが異なると考える。
	(4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実	(4) ア・フォローアップコーディネーターを中心に SC、SSW と密接に連携を取りながら生徒支援委員会が中心となって活動する。情報は全教員で共有することにより、一貫性のある指導を実施する。 ・生徒の居場所となり、教員との人間関係を構築する取り組みを実施する。	ア・学校教育自己診断(生徒)で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を 80%以上にする。 [83%] ・中退率 7%以下を維持する。 [3. 7%]	ア・肯定率 86% (○) 担任はもちろん、学年付教員、授業担当者、顧問、養護教諭など、多くの教員が生徒に関わり、生徒と話すことを大切にしている。 ・中退率 11. 8% (△)
3 キ ャ リ ア 教 育 の 充 実	(1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。	(1) ア・生徒・保護者の進路に関する理解を深めるため進路保健部と担任団が一体となり、説明会実施、進路だよりの発行などの情報提供を行う。 イ・1 年次より進路の手引き(ロードマップ)を活用し、系統立てた進路 HR を実施し、進路選択について考える機会を設ける。	ア・学校教育自己診断(生徒)で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を 85%以上とする。 [89%] イ・学校教育自己診断(生徒)で進路指導に関する設問「将来について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」の肯定率 85%以上を維持する。 [80%, 89%]	ア・肯定率 95% (◎) 「進路通信」を年間 4 回発行。 各種進路に関するパンフレットや冊子の設置配布をはじめ、配付物の教室掲示を増やした。 イ・「将来について考える機会がある」肯定率 83% 「進路情報を伝えてくれる」肯定率 95% (◎) ●進路 HR などでの生徒の様子から生徒は、まだ先のことと捉えている。そのため早期から自分事として捉えさせる工夫が必要。

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

		ウ・就労体験、応募前職場見学を実施し、就職希望者の進路選択の機会を増やす。また進学希望者には実現に向けた情報を提供し、粘り強く指導する。	ウ・卒業生の希望進路実現率 75%以上を維持する。 [61.1%]	ウ・卒業生の希望進路実現率 79.3% （○）
4 学 校 力 の 向 上	（１）教員力の向上 （２）職務の効率化 （３）コンプライアンス意識の向上 （４）危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	（１） ア・相互の授業見学、本校全日制の授業見学や研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。 （２） ア・会議の開催を最小限にし、時間短縮、ペーパーレス化を促進、校内 LAN（掲示板）を活用することで、職務の効率化をはかり、時間外勤務を減らす。また年次有給休暇を計画的に取得するようにする。 （３） ア・職員会議等において不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。 ・セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報の管理体制を強化する。 （４） ア・職員研修を開催する。 ・非常変災に備えて校内体制を整備し、防災計画等のマニュアルを作成し、日頃から連絡方法や配備体制について全教員に周知する。 ・生徒に自らの命を守ることを意識させた実践的な避難訓練を実施する。	ア・本校全日制や他の定時制高校の授業見学を促進し、参加率 50%以上を維持する。 [54%] ・授業公開月間を前期と後期の２回設け、校内で互いに授業見学を行う。その際、観点別評価を反映した「授業見学シート」を作成して授業の工夫を共有する。 ・学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業の説明は、わかりやすい」の肯定率 85%を維持する。 [92%] ・授業アンケート「先生は、わかりやすく説明してくれる」の学校平均 3.55 以上を維持する。 [3.64] ア・1人あたりの時間外在校等時間を月平均 15 時間以下とする。[達成] ・年次有給休暇を 5 日以上取得する職員を 100%とする。[達成] ア・職員研修を年 1 回以上実施する。 [2 回実施] ア・防災に関する職員研修を年 1 回以上実施する。 [新設] ・学校教育自己診断(生徒)「地震や火災が起こった時、どのような行動をとればよいかわ知らされている」の肯定率 85%以上を維持する。 [97%]	ア・参加率 59%（非常勤含む）（◎）（参考）84%（非常勤含まず） ・今年度は布施高校定時制と相互授業見学を実施。本校の授業の様子をオンラインによって見学いただいた。また本校教員は布施高校にて授業を見学予定。 ●今後も継続できるよう検討したい。 ・授業見学週間を年に 2 回設定し、前期 11 回、後期 5 回の授業見学を行った。感想等はフォーム作成ツールで行い、データを集約、共有し授業改善に役立てた。 また、これらの成果は、学校教育自己診断(生徒)の回答において、授業に関する 4 項目の平均肯定率 89.5%からもうかがえる。 ・肯定率 94% （○） 授業改善に向けた授業担当者の取り組みが、実感として生徒に伝わっている。加えて授業内に複数の教員、あるいは学習支援員が配置されている講座が多かったため、より細かい指導が行き届いたと考えられる。 ・学校平均 3.62 （○） 各授業担当者が生徒との信頼関係を築き、生徒に授業を理解させ、わかる喜びを伝え、より自信を持たせて生徒の向上心を高められたと考えている。 ●非常勤講師との格差対策が必要。 ア・達成 （○） 時間外在校等時間を月平均 9 時間 51 分（2 月末） ・年休を取りやすい職場の雰囲気づくりを意識し、1 月の段階で年間での年休取得 5 日以上を、全員が達成した。 取得率 100%（○） ・3 回実施 （○） 個人情報の取扱いに関する職員研修 9 /19 SC による職員研修 11/16 生成 AI の利用に関する研修 2 / 6 ア ・1 回実施 （○） ●来年度は不審者侵入に対する研修を検討 ・肯定率 96% （○） 校内にて「緊急地震速報」を流すなど、実際にイメージして行った。また避難訓練そのもののアンケートにおいて「先生の指示は伝わったか」には全ての生徒が「伝わった」と回答。一方で、「大地震が発生したときあなたは生きのびるための対策を考えていますか」との質問に対し 58%が「学校が何とかしてくれると思うので、何も考えていない」と回答しており、生徒の意識改革が今後の課題。